

## 小中連携基本構想

### 1 宮古管内小中連携推進テーマ

「確かな学力」の向上を柱とした小中連携  
～普段の教育活動に小中連携の視点を～



### 2 伊良部中学校区連携目標

連続した学びによる「確かな学力」の向上

### 3 ねらい

- 【9年間を見通しての一貫した教育活動の推進】
- 学力向上のための指導内容や指導方法の円滑な接続を図る
  - 生徒指導上の情報や課題の共有化を図る
  - 発達段階に応じた生活習慣や学習習慣の確立を図る

### 4 小中連携に期待する効果

**□小中学校の滑らかな接続**  
児童生徒の成長を義務教育9年間でとらえ、小学校と中学校の繋がりを意識した、きめ細かで系統的・継続的な指導を行うことで学校間の差で生じる課題解決が図れる。

**□児童生徒の能力や個性の伸長**  
発達段階に応じた学習習慣や生活習慣の定着を図り、児童生徒の「生きる力」を育み、一人一人の能力や個性を伸長することが期待できる。

**□教職員の意識改革**  
教職員がそれぞれの指導内容や指導方法の交流を図ることで、授業改善や指導力向上の契機とし、義務教育9年間で児童生徒を育てるといふ教職員の意識改革が進む。特に、指導の統一が図られ、発達段階に応じたきめ細かな指導が期待できる。

**□人間関係能力の育成**  
小中異年齢の交流活動を計画的・発展的に行うことを通して、児童生徒の自己有用感を高め、人間関係能力を育むことが期待できる。

#### □児童生徒にとっては



- 進学時の不安解消
- 中1ギャップの低減
- 学習・生活意欲の向上
- コミュニケーション能力の向上

#### □教職員にとっては

- より深い児童・生徒理解
- 小中の系統性を意識した指導（生活面・学習面）
- 授業力の向上（授業改善）



### 4 小中連携の視点

- <視点1> 「児童生徒理解の一貫性」  
：小・中で共通する子どもの理解を進める
- <視点2> 「教育目標の一貫性と学習目標の設定」  
：「育てたい子どもの姿」を設定し、一貫性のある学習目標を設定
- <視点3> 「学習指導の継続性」  
：子どもの発達段階をふまえた共通認識をもって学習指導にあたる
- <視点4> 「学習内容の系統性」  
：学習内容のつながりを把握する  
※ 子どもたちが現在の学習内容に至るまでにどのような学習をしてきたのか、現在の学習内容の後にそのような学習をしていくのか、把握する必要がある。  
→ 9年間の学びのつながりを見通す